

2015年(平成27年)

10月26日(月)

第18850号
Since 1936

台湾のリサイクルの促進に注力

台湾は世界的な電子産業の集積地であり、大量の使用済み電気電子機器および部品（Eスクラップ）が発生している。台湾の産学官のリサイクル関係者が加盟する台湾資源再生協会では、Eスクラップを中心に資源リサイクルに関する技術開発や国際交流、政府への提言などをを行い、台湾でのリサイクルの促進に注力している。台湾資源循環技術交流シンポジウムの開催に当たり、同協会の蔡敏行創会理事長（成功大学教授）に台湾の資源リサイクルの現状や課題について聞いた。

——台湾の資源リサイクル政策の推移について。
「1974年に施行された『廃棄物整理法』は、環境衛生と廃棄物の不法投棄禁止により、資源の有効活用の面では十分でなかった。97年にはごみ減量と資源回収の促進及び拡大生産者責任制度（EPR）を推進するため、製品の製造業者が処理に関する費用を支払うことが義務付けられた。2002年には『資源再



——台湾の資源リサイクル法が制定され、本格的な資源リサイクルがスタートした」
——廃棄物処理の特徴を。

——政府が指定した廃T製品、自動車や家電製品、Iヤ、紙ビンなどのほかは、環境衛生と廃棄物の不法投棄禁止により、資源の有効活用の面では十分でなかった。97年にはごみ減量と資源回収の促進及び拡大生産者責任制度（EPR）を推進するため、製品の製造業者が処理に関する費用を支払うこと

——台湾の資源リサイクルが発達している。次いでアルミスクラップの発生が多い。銅の回収もやっているが、硫酸銅でのリサイクルが主になつていて。ほかにも銅、鉛、亜鉛、インジウム、貴金属のリサイクルなどが盛んに行われている。ほかにも銅、鉛、亜鉛、インジウム、貴金属のリサイクルなどが盛んに行われている。

——台湾で主にリサイクルされる金属にはどのようなものがある

——「台湾で主にリサイクルされる金属には」となじが背景にある

——台湾の金属リサイクル産業の現状につ

台湾資源再生協会創会理事長 蔡敏行氏

原料の主な輸出先は、「金属リサイクル原

料の輸出量としては、

大陵（中国）への輸出

量が最も多く、現在は日本への輸出量はそれ

の占める量ではない。やはり大陸と台湾は言葉

通りうえ、ビジネス

率も低下している」と

——「リサイクル処理の余剰問題を解決するためには。

——「外国から金属リサ

イクル原料を受け入れ

たのが本質だ。大陸に進出した台湾企業が

台湾へも台湾にして処理

されるようになってしま

——「協会では銅製錬

工場の設立を呼び掛け

——「Eスクラップのリ

サイクルを進める上

——「Eスクラップのリ

サイクル原料の流通

が規制によって経済

性が阻害されることな

——「Eスクラップのリ

サイクルを進めること

には、この政策の効果もあり、一人当たり

ごみ排出量は日本の900gに対し、500gを割り込んでい

——「台湾で主にリサイクルされる金属には

どのようなものがある

——「台湾の金属リサイクル産業の現状につ

まる。この政策の効

果もあり、一人当たり

ごみ排出量は日本の900gに対し、500gを割り込んでい

——「台湾で主にリサイ

——「台湾の金属リ

——「台湾で主にリサイ

——「台湾の金属リ

——「台湾の金属リ

——「台湾の金属リ

——「台湾の金属リ

処理能力余剰 海外と互助関係構築

——「台湾は電子産業が発達しており、そこから多様なスクラップが出てくる。それらスクラップを処理するた

——「台湾はリサイクル原料の輸入に関する規制が厳しいと聞く

——「台湾はリサイクル化が可能だ

——「スラグや金属など

——「スラグや金属など

——「スラグや金属など

——「台湾は資源循環を行なっており、そこから多様なスクラップが出てくる。それらスクラップを処理するた

——「台湾はリサイクル原料の輸入に関する規制が厳しいと聞く

——「台湾はリサイクル化が可能だ

——「スラグや金属など

——「スラグや金属など

——「スラグや金属など

——「距離的にも近く、当協会としては東京大連携し、台湾での銅製錬工場の設置を積極的に推進している

——「日本との関係に

——「日本との関係に

——「日本との関係に

——「日本との関係に

——「日本との関係に

——「資源循環を行なうことと、培焼などの処理を行なうが、含有量は低

——「資源循環を行なうことと、培焼などの処理を行なうが、含有量は低